

岩手高校時代の音楽体験

瀬川 武（新12回生）

私は中学を卒業してから一年半夜間の高校に通っていました。その後、岩手高校に転入することが出来、通学することになりました。昭和三二年九月の事でした。

校門を入ると左側に倉庫のような建物がありそれが音楽室でした。中はうす暗く、古いピアノがあり弾くと調律も全然してなくチェンパロのような音が出てびっくり仰天してしまいました。

私は中学時代、昼休みになると仲間と男声四重唱をして楽しんでました。曲は色々なものをこなしました。男声合唱曲、ドイツ民謡等で、クラスの皆も美しいハーモニーが響いた時などは拍手などしてくれて、良い気分になったりしたものです。

ところが岩手高校に入り私が音楽の勉強をしていることが知れると音楽などは女子「おなご」がするもので男がするものではない。お前は「シスターボーイ」である、と決めつけられないやな思いをしました。しかしクラスの中にも音楽が好きの人が結構いて、楽しくなって来ました。シヨスターコヴィツチの交

響曲第五番はすごいよ、と教えてくれた友人もいました。またチャイコフスキーの交響曲六番「悲愴」を聞きあつて色々感想を述べたりなかなかのものでした。

また、音楽担当の高橋勲先生との出会いも私にとって素晴らしいことでした。

先生の家にしよっちゅうおじやましてはレコードを聞かせていただき、その曲について熱っぽくお話しをされる先生から私は音楽についてのかわりかたみたいなのを教わつたような気がします。フィツシャーデイスカウの歌うシューマンの詩人の恋、あの感動は今でも忘れられない。ゼルキンのベートーヴェンのピアノソナタ、月光、熱情、等色々聞かせていただいたものです。

今思ってみると、岩手高校時代、結構多くの音楽を聞き、そうそう男声合唱も夢中でした。その頃男声合唱をする高校は岩手高校だけで県の合唱祭に初めて出演した時の感動も忘れることが出来ません。本当にさまざま音楽体験をしたものだなあと驚いております。今迄の人生（おおげさですが）の中で何と

言っても忘れられないことは、岩手高校時代の友人達が石桜35会という会を組織して下さい、私のリサイタルを開催してくれたことです。平成二年七月二〇日、岩手県民会館中ホールででした。リサイタルを開催するということは、チケットの販売、会場とり等、苦労が多く大変な事なのです。今でもあの当時の事を思うと胸があつくなります。石桜35会の皆様には心から感謝しております。

今度は是非、学校で演奏したいものです。素晴らしい高校時代を過ごすことが出来た岩手高校に心からお礼を申し上げたいと思います。創立七〇周年をお祝い申し上げ今後の発展をお祈りいたします。

